

こうよう 紅葉

こうよう もみじ らくようじゅ あき は いろ あか きいろ か げんしょう
紅葉、または紅葉とは、落葉樹が秋になると、葉の色が赤や黄色に変わる現象の
こと。日本人は春の桜と同じように、紅葉を美しい景色として褒め称え、古
から詩歌にその美しさを詠み込んでいます。桜を見るのを花見と言うように、山野
に紅葉を見に行くことを「紅葉狩り」と言います。赤や黄色の葉が散ってしまう
と、日本列島は冬へと季節を変えるのです。

さくらぜんせん たいひ こうよう みごろ すい こうようぜんせん よ こうよう くがつ
桜前線と対比して、紅葉の見頃の推移を「紅葉前線」と呼びます。紅葉は、9月
ごろ ほんかいどう たいせつざん てはじ はじ じょじょ なんか こうよう はじ
頃から北海道の大雪山を手始めに始まり、徐々に南下します。紅葉が始まってから
かんりょう やくいっかげつ みごろ かいしごはつか にちていど じき
完了するまでは約1ヶ月かかります。見頃は開始後20日から25日程度で、時期は
ほんかいどう とうほくちほう かんとう きゅうしゅう はじ ごろ うつく
北海道と東北地方が10月、関東から九州では11月から12月初め頃までです。美
く こうよう じょうけん そろ ひつよう さいていきおん い
く紅葉するには、いくつかの条件が揃う必要があります。まず、最低気温が5℃以
か さむ ひ つづ こうよう きゅう すず にっこう あ ばしょ くう
下の寒い日が続くと、紅葉は急に進みます。そして、日光がよく当たる場所や、空
ちゅう しつど てきど だいじ かわぞ こはん こうよう めいしょ おお
中の湿度が適度にあることも大事です。川沿いや湖畔に紅葉の名所が多いのは、そ
ういう理由からです。紅葉の季節になると、紅葉の名所として知られる場所は、紅
みじが き こうらくきやく あおもりけん おいらせけいりゅう とやまけん
葉狩りに来た行楽客であふれるようになります。青森県にある奥入瀬溪流や富山県
のくろべきょうこく ながのけん しらこま いけ きょうと しゃじ ぜっけいこうよう し
の黒部峡谷、長野県の白駒の池、京都の社寺などは、絶景紅葉スポットとして知ら
れています。「狩り」という言葉は「草花を眺めること」を意味し、紅葉を愛でる
しゅうかん へいあんじだい はじ むかし じっさい こうよう き えだ て お
習慣は平安時代から始まったとされています。昔は実際に紅葉した木の枝を手折
り、手のひらに載せて鑑賞するという鑑賞方法もありましたが、今では枝を折り
と も かえ こうい しんりんせつとうざい みな お は さいしゅう
取って持ち帰る行為は森林窃盗罪と見做されるため、落ちている葉っぱを採集する
だけに留めましょう。

こうよう いっぱんてき らくようじゅ おお なまえ か
紅葉は一般的に落葉樹のものが多く、名前に「もみじ」がつくムクロジ科カエデ
ぞく すうしゅ とく ゆうめい ふだん は みどりいろ み ふく
属の数種が特に有名です。普段、葉が緑色に見えるのはクロロフィルが含まれるか
らで、夏の間、クロロフィルが光を吸収して活発に光合成が行われます。しかし、

あき にっしょうじかん みじか ぶんかい は ろうかはんのう
秋になり日照時間が短くなると、クロロフィルが分解されるという葉の老化反応が
お は たくわ えいよう みき かいしゅう よくねん はる えいよう さいりよう
起こり、葉に蓄えられた栄養が幹へと回収され、翌年の春にその栄養が再利用され
しく えいよう じゅうぶん かいしゅう は ようへい つ ね りそう
る仕組みとなっています。栄養が十分に回収された葉では、葉柄の付け根に離層が
えだ き はな むだ すいぶん
でき、枝から切り離されるようになります。これによって、無駄な水分やエネル
ふゆ あいだ しょうひ ふせ は きいろ もともとよう
ギーが冬の間に消費されるのを防ぐことができます。葉が黄色くなるのは、元々葉
りょくたい なか ふく しきそ あき ぶんかい
緑体の中に含まれるカロチノイドという色素が、秋にクロロフィルが分解するに
め は あか
つれ、目につくようになるからです。葉っぱが赤くなるのはアントシアニンという
しきそ ゆらい こうごうせい つく ようぶん ぶんかい とう
色素に由来します。光合成で作られたデンプンなどの養分が分解されて糖になり、
にっこう あ とう こうそ ほんのう つく だ かんが
日光が当たることで糖と酵素が反応してアントシアニンを作り出すと考えられてい
しんく いろいろ いろ こうよう み き
ます。真紅やサーモンピンク、オレンジなど色々な色の紅葉が見られるのは、木の
しゅるい つく りょう ちが
種類によって作られるアントシアニンの量が違うからです。

ひろしまけんみやじま めいざんひん まんじゅう だいひょう こうよう にほんじん せいかつ
広島県宮島の名産品であるもみじ饅頭に代表されるように、紅葉は日本人の生活
すみずみ しんとう い こうよう かもん しゃじ もん
の隅々にまで浸透していると言えます。紅葉をモチーフにした家紋や社寺の紋もあ
ります。日本人は紅葉から季節の移ろいや秋の風情を感じます。一面が紅葉してい
こうけい じょうりょくじゅ みどり あか たんのう こうよう
る光景や常緑樹となす緑と赤のコントラストを堪能するために、さまざまな紅葉
あし の
スポットに足を伸ばしてみたいはいかがでしょうか。